

やまなしの福祉

11 No.326
2015
月号



特集 介護について考える

- P2 介護保険制度改正について
- P3 中央市社協の介護予防ボランティア養成講座
- P4 北杜市・北杜市社協が取り組む介護支援
- P6 アニマルセラピー
帝京科学大准教授の横山章光さんに聞く
- P8 介護福祉士さんインタビュー
- P12 いきいき山梨ねんりんピック2015
- P14 福祉用具紹介

表紙写真: アニマルセラピー
(上野原市大野の介護老人福祉施設「桜の里」)
関連記事P6をご覧ください。

介護保険制度が改正されました

地域包括ケアシステムの構築と費用負担の公平化

3年ごとに見直しが行われている介護保険制度。平成27年4月から適用された制度改正の大きな柱は、地域包括ケアシステムの構築と費用負担の公平化です。介護保険は一部給付が縮小され、市区町村が行う地域支援事業の重要度が増すなど、大きな見直しが行われました。

地域包括ケアシステムの構築

地域包括ケアシステムは、高齢者が重度な要介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい生活を継続できるように、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供されるシステムです。

そのためには、市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが求められています。

～地域包括ケアシステムの構築に向けた地域支援事業の充実策～

- ①在宅医療・介護連携の推進
- ②認知症施策の推進
- ③地域ケア会議の推進

地域支援事業

高齢者が要介護(要支援)状態になることを予防するとともに、要介護状態となった場合でも、可能な限り自立した日常生活を営むことができるよう支援することを目的として、市町村が実施する事業です。

これまでの介護予防事業、包括的支援事業(地域包括センターの運営)、任意事業(地域の実情に合わせた見守り・介護技術の習得など)に加え、事業の一層の充実に向けて、地域の支え合いを推進する生活支援コーディネーターの配置や、関係主体(民間企業、NPO法人、ボランティアなど)の情報共有・連携・協働による取り組みを推進する協議体を設置して、事業を支援します。

重点化・効率化のポイント

●全国一律の予防給付(訪問介護・通所介護)を市町村の地域支援事業に移行

- ★段階的に移行します(～平成29年3月末)。
- ★市町村に移行することで、自治体が地域の特性にあった多様なサービスに作り変えることができます。また、地域づくりの原点である住民やボランティアなど、多様な担い手の参加が期待されます。
- ★運営基準やサービス単価、利用料などが独自に設定できます。認定を受けなくても、基本チェックリストでサービスの利用も可能になります。

●特別養護老人ホームの新規入所者が原則、要介護3以上に限定

- ★在宅での生活が困難な中程度の要介護者を支える施設としての機能に重点を置き、新規入所者を原則要介護3以上に限定しました。※特例あり

費用負担の公平化

低所得者の保険料軽減を拡充する一方、保険料上昇をできるだけ抑えるため、所得や資産のある人の利用者負担を見直しました。

重点化・効率化のポイント

●低所得者の保険料の軽減割合を拡大

●一定以上の所得のある利用者の自己負担を引上げ

- ★これまで一律1割だった利用者負担について、一定以上の所得の方の自己負担割合を2割としました。※ただし、月額上限があるため、見直し対象の全員の負担が2倍になるわけではありません。

住民同志で 支え合い、助け合う

中央市社会福祉協議会

「介護予防ボランティア養成講座」「ほっと。スマイルサービス」

だれもが住み慣れた地域で「安心・安全」に暮らすためには、「地域での支え合い、助け合い」が必要になります。中央市では、介護予防について必要な知識を市民に持ってもらう、と「介護予防ボランティア養成講座」を開催しています。受講した人は、日常生活の困り事を住民同志で支え合う住民参加型有償在宅福祉サービス「ほっと。スマイルサービス」に協力員として登録できます。

講座を始めた背景や内容などについて、中央市社会福祉協議会生活支援コーディネーターの一瀬綾子さんに伺いました。



中央市社会福祉協議会の
生活支援コーディネーター
一瀬綾子さん

❗ 講座を始めた背景は？

「サロンのお手伝いボランティアを養成したい」ということと、ボランティア自身の介護予防も兼ねて平成23年にスタートしました。

当初は参加者も少なく、しっかりした目的を持つことが大切と考え、アンケート調査や「福祉教育推進ネットワークミーティング」で話し合い、「ちょっとした時に手伝ってくれるボランティアサービスがあったらいいよね」、「これなら私にも出来る」などの活発な意見があり、少し方向転換し、24年度から現在のような講座になりました。

❗ どのような方を対象にしているのでしょうか？ 講座内容は？

中央市在住の方を対象に、民生委員・児童委員や、親が高齢なので勉強したい、といった方など、年齢を問わず参加しています。参加者は平均約30人。講座は、「資格がなくても誰でもできる」内容を基本に年1回開催しています。わかりやすく、自分や家族のためにもなり、認知症や介護の知識、運動機能、口腔ケアなど興味がわくようなテーマを、年ごとに変えて実施しています。

❗ 受講者の反応は？

受講者アンケートでは「自分だけでなく家族にも参考になった」「地域の実情を知ることができてよかった」など、内容について評価する声をいただいています。また「自分に出来る範囲でやってみたい」「地域に密着したボランティア活動が大切」など、ボランティア活動への理解も深まっているようです。

❗ 受講者で「ほっと。スマイルサービス」の協力会員に登録される方はどのくらいいるのでしょうか？

登録は受講者の半数です。登録した協力会員は現在60人で、このうち約30人が実際に活動しています。多くの方にサービスを知っていただき、幅広いニーズにこたえられるよう、協力会員の登録を進めています。

❗ 中央市社協は今年度より市からの委託事業として、生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）を配置しています。介護予防ボランティア養成講座や「ほっと。スマイルサービス」を生かすうえで、地域支援コーディネーターはどのような役割を担っているのでしょうか？ 課題や今後の目標は？

誰もが身近なこととして受け止め、まず自助に努めていただく。ボランティア活動はその自助、たとえば自分の趣味活動の延長が互助やボランティアにつながっていくことなども知ってもらうことが大切です。また、誰かに何かをしてもらうだけでなく、誰かの役に立つことで、生きがいを持って元気に地域の中で活躍していただけるような働きかけをしていきたいと考えています。

将来的には講座などを通じて、一緒にコーディネートができるような人材をエリアごとに見出していきたいと考えています。



高齢者を地域で支える仕組みづくり

北杜市は、高齢者自身がボランティア活動を行うことで、自らの介護予防を図り、活力のある地域づくりに寄与する「介護支援ボランティア制度」の推進、また介護に役立つ知識を学ぶ場としての「元気回復のつどい」の開催に加え、今年7月からは認知症の方や家族が気軽に利用できる「オレンジサロン」をスタートさせ、高齢者を地域で支え合う仕組みづくりを進めています。

開設の目的や連携、課題などについて、北杜市社協事務局長の坂本正輝さん、地域福祉課課長小林由美子さん、地域福祉課主幹佐藤かおりさんに伺いました。



(左から)
北杜市社協事務局長 坂本正輝さん
同地域福祉課課長 小林由美子さん
同地域福祉課主幹 佐藤かおりさん

介護支援ボランティア制度

厚生労働省の認可を受けた有償ボランティア制度。平成19年5月に導入が決定された。

地方自治体が介護支援に関するボランティア活動を行った高齢者(原則65歳以上)に対し、実績に応じて換金可能なポイントを付与する制度。介護保険法の規定に基づき、地域支援事業交付金を財源として導入された。制度の運営は、自治体が介護予防事業として行い、ボランティアの登録や手帳の交付、ポイントの管理・付与は、地域の社会福祉協議会などが行う。



スタンプを
押しもらう
「元気よぼう手帳」

介護支援ボランティア制度 高齢者自身がボランティア活動

❓ 導入した背景は?

北杜市の高齢化率は県内13市の中で最も高い34.6%(平成27年度)。高齢者がボランティア活動を行うことで、自らの介護予防を図り、また、活力ある地域づくりに寄与していただけるように、平成23年度に導入しました。

❓ 制度の特徴は?

事業は市と協働で進めています。市で申請を受け付けて資格審査(北杜市に住民登録している65歳以上で、要介護認定・要支援認定を受けていない方等)の後、社協で事前研修を行います。毎月1回、都合のいいときに参加してもらいます。

登録した方は、市から指定を受けた78の施設(市内の介護保険施設、介護予防事業施設、障害者支援施設、保育所等)から、行きたい施設を選び、各自で連絡して活動をします。自ら考えて行動することも制度の特徴です。ただ、意欲があっても、それがハードルになってはもったいないので、社協でサポートすることもあります。

❓ どのような活動?

必ずしも介護ではなく、草取りやお話しなども対象になります。活動に応じて施設から「元気よぼう手帳」にスタンプを押ししてもらいます。上限は1日2時間まで(1時間1スタンプ)。5,000ポイント(5,000円)が年間の上限で、ポイントは年度内に清算します。昨年度は49人がポイント申請をしました。

❓ 活動している方の感想は? また施設の反応は?

登録者は9月1日現在で136人です。平均年齢73.9歳。楽しみながらやっている方が多いです。「外に出て行動することで自分が学ぶことが多い」「自分を待っていてくれる利用者がいて励みになる」との声を聞いています。

施設からは「利用者が楽しみにしている」「花壇の手入れなどは職員も助かる」などの声が聞かれています。

❓ 課題や今後の目標は?

現場(職員)まで制度への認識がまだ行き届いていない施設もあるので、制度の周知や、併せて市民への周知も一層進めていく必要があります。

フォローアップ研修を年度末に行い、反省や意見交換をしていますが、こうした研修を通じて、さらに活性化を進めていきたいと思っています。

元気回復のつどい

介護の知識を学ぶ

Q 開催の経緯は？

以前から介護者の研修と交流の機会として、市社協では「家族介護者教室」を、市では「介護者のつどい」をそれぞれ開催していました。その2つが合体する形で、平成23年より共催で「元気回復のつどい」を開催しています。

Q 参加状況や参加者の反応は？

市内で介護をされている方や、介護に興味のある方が参加しています。年6回開催し、10人前後の方が参加しています。家に居てはわからない専門的な話を幅広く学べ、それぞれが抱える悩みを仲間同士で共有し、介護者も良い状態を保持できるよう定例化しているので、とてもありがたい、といった声をいただいています。

Q テーマはどのように決めている？

年度末に、市社協と市の担当者が来年度6回のテーマを決めています。内容は、制度改正や政策の動きなどその時々々の旬の話題を取り入れ、また参加者の希望や地域の状況をくみ取り、できるだけ介護者が知りたいことを学べるテーマを、市社協と市の担当者で考えています。



元気回復のつどい

オレンジサロン

介護の悩みを気軽に語り合う

Q 開設の経緯は？

「元気回復のつどい」に参加している間、介護が必要な家族を預けておける場所がないという問題が生まれ、サロンのような形でお預かりしてはどうか、というところから構想がスタートしました。折しも、国の認知症推進施策である「オレンジプラン」とも重なり、開設を後押しされました。

Q 「元気回復のつどい」との連動は？

「つどい」では学習が主となるので、悩みなどを吐き出して語り合うような時間まで持つことが難しいのですが、「オレンジサロン」では、ゆっくり語り合うことができます。「つどい」は研修の場、「オレンジサロン」は交流の場といった位置づけで連動し合っています。

Q どのような方が参加？ どのような活動？

「つどい」からの参加者や、市社協の広報誌やチラシを見て来られる方もいます。特にプログラムは設定せず、自由にお菓子を食ったり、お茶を飲みながら会話や交流をゆっくりと楽しんでいただけるよう、職員もリラックスできる雰囲気をつくるようにしています。

Q 参加者の感想は？

「介護を始めたころは一人で悩んでいたが、同じ悩みを持った人たちが語り合い、交流できる場があって本当によかった。ほっとした。」といううれしい声をいただいています。また、「もっとたくさんの人に知ってもらって参加者が増えるといいのに。」という期待の声もいただいています。

Q 課題や今後の目標は？

まずは地域住民にもっと知っていただくことが一番大切だと思っています。また、現在は市内一カ所のみで行っているため、来られない方もいます。送迎の問題などの課題をクリアし、しくみや基盤をつくった上で、地域に密着した自由なコミュニティカフェのひとつとして各地区にも広げていきたいと考えています。そして、社協の強みを生かした「地域づくり」の拠点となる場所を作ることが目標です。



会話や交流を楽しむオレンジサロン

動物は人と人の関係を深めるツール

～アニマルセラピー～

動物と触れ合うことで人の精神的な健康を回復させる効果があるとされる「アニマルセラピー」。

帝京科学大学生命環境学部アニマルサイエンス学科准教授の横山章光さんは、20年以上にわたってアニマルセラピーの研究に取り組んでいます。

横山さんと、同学科卒業生の西川日向子さんに、アニマルセラピーについて伺いました。



帝京科学大学生命環境学部
アニマルサイエンス学科准教授
横山 章光(よこやま・あきみつ)さん

産業医科大学卒 国立東京第二病院、
防衛医科大学病院などを経て現職。
精神科医として、人と動物の関係学
(特にアニマルセラピー、ペット・ロス、動物虐待、
動物観)を研究。
※ペット・ロス:ペットを亡くした時に生じる喪失体験



帝京科学大学
コンパニオンアニマルセンター
飼育技術職員
西川 日向子(にしかわ・ひなこ)さん

帝京科学大学アニマルサイエンス学科卒。
人間動物関係学研究室11期生。

未知な分野への挑戦

横山 勤務していた病院の看護師さんたちが「アニマルセラピーをやってみたい」と言ったことがきっかけで、1994年からアニマルセラピーに取り組み始めました。

まだ精神科医が本格的に手をつけていないアニマルセラピーの研究と同時に、「ペット・ロス」「動物虐待」もテーマとし、自分が死んでも残る分野を創ることを目標としました。

その後、ロボットセラピーにも取り組みました。ロボットはルールを決めてみんなで遊ぶ「ごっこ遊び」の存在。動物は意思や感情をもつリアルな存在として、人と動物とが1対1の関係になります。

ロボットにはロボットの良さがあり、使い分ければ良いと思います。要は、動物もロボットも、人と人との関係を深めるためのツールです。

お年寄りを知ることから始める

西川 私たちは、動物を連れて高齢者福祉施設を初訪問しました。でも、「認知症」はもちろん、おじいちゃん、おばあちゃんのことを何も知らない。何をどのように話していいかもわからない…。まずは、おじいちゃん、おばあちゃんのことを知ろうと、動物を連れていかない訪問をはじめました。訪問活動は毎週続けています。

横山 動物を連れていき、なでてもらっただけで治療効果があるのか、と疑問に思っていました。まず、学生は「個のおじいちゃん、おばあちゃん」を知り、理解するうえでの動物なのですね。これこそが、自分が考えていたアニマルセラピーの理想形ではないか、と思うようになりました。

横山 学生が、山梨の歴史を調べる中で養蚕のことを知り、蚕を手に入れました。

学生は、おじいちゃん、おばあちゃんのことを好きだから、喜ばせたいと思うので、自発的に動き、いろいろな工夫をしながら動物を活用するので、アニマルセラピーの意味があります。これに気づくのに20年かかりました。



学生が手に蚕をのせると養蚕の経験を話すお年寄り

若者のポテンシャル(可能性)を育てる

横山 若い人は、高齢者福祉施設に行くのを嫌がるかな、行ってもすぐに飽きるかな、と思っていましたが、意外にやるのですよ。そうした場を与えることで、若い人が鍛えられて変わる。若い人も社会貢献がわかるようになり、何ができるのか、常に考えるようになります。学生のポテンシャルを生かしていきたい。

学生が施設訪問を始めてから一切、強制も口出しもしていません。でも逆に“放置”されたら、学生はおじいちゃん、おばあちゃんのことを大好きになり、クセも覚え、一緒に大笑いしています。

西川 訪問当初は戸惑いもありました。お年寄りの中には、わからなくなると、ごまかして「鳩ぽっぽ」を歌い出す人もいるし、予想しなかった反応もあります。それでも「うんうん」と言って一緒に歌ってあげる。一方的に話しかけるのではなく、その人に合わせた話し方や、相手を否定しないで「そうなんだね」と返すことが身に付いていきました。

横山 福祉の難しさであり、今の福祉に欠けているのは「してあげたい」という感覚です。高齢者福祉施設で働く人は、お年寄りを生かすプロですが、こうした感覚はボランティアでなければ持てない。逆に言うと、施設の人が持つては駄目です。それは仕事だから。学生にはこの感覚があると思います。

課題は次の学年につないでいけるかということ。これは強制したら出てこない感覚で、自ら湧いてこないといけないものです。



学生といっしょに習字を楽しむお年寄り

お年寄りにとってのゴール、目標とは何か?

横山 訪問していくうちに「お年寄りにとってのゴールは何か」について、みんなで悩み、考えるようになりました。長生きすることなのか、お年寄りに何をしてあげられるのだろうか、と。

西川 まだ悩んでいます。話すことができないお年寄りと筆談でコミュニケーションをとったら、ニコって笑ってくれました。今は、いっしょに楽しめるように、習字をやっています。一人ひとりに何をしてあげられるのだろうか、と考えています。

みんなの頭の中に残ること

西川 先月、大好きだったおばあちゃんが亡くなりました。亡くなる前、元気のない様子が心配になり、そのおばあちゃんに会いに行きたくなりました。

横山 一人でポツンと長生きするよりも大事なものは、こういう次世代に思い出として残っていくことかな、と。それは押し付けてはならないし、押し付けではそうはならないと思います。

お年寄りにとってのゴール、目標は何なのか?

その人が亡くなっても、だれかの頭の中に残ることでは。「あのおばあちゃんは、こうだったよね」とみんなの頭の中に思い出として残る。そのことがゴール、目標ではないか、というような気がします。



インタビューを終えて(研究室にて)

利用者の笑顔がみたい 一緒になって楽しみたい

高齢者や障害者など介護が必要な方々に介護サービスを提供するには、専門性を持った介護福祉士の役割が重要になっています。また、その役割は身の回りの世話をするだけの介護から、高齢者や障害者等の生き方や生活全体にかかわることで利用者の暮らしを支え、自立に向けて利用者や家族と共に実践することへと変わってきています。

山梨県立育精福祉センター成人寮で、介護福祉士として活躍している飯室雄真さんに、介護福祉士になろうと思ったきっかけや、仕事の内容、働き甲斐を感じたこと、悩んだこと、将来の夢などを伺いました。



山梨県立育精福祉センター成人寮

介護福祉士

飯室 雄真(いむろ ゆうま)さん

Q なぜ介護に従事しようと思ったのですか？
また、介護福祉士という国家資格を取得しようと思ったきっかけは？

弟に先天性の知的障害があり、祖父は視覚障害者でした。また母が医療施設で看護師をしているという家族の環境が大きいです。大学は動物関係に進み、卒業後は動物病院に勤務したのですが、将来的なことを考えて福祉、介護の道に進みたいと考えるようになりました。ソーシャルワーカーをしている叔父にアドバイスをいただき、介護福祉士の資格が取れる学校に進みました。

Q 介護福祉士等を目指す方々に修学資金を貸し付けする制度を利用されたと伺っていますが、制度についてはどのような経緯でお知りになって利用されたのでしょうか？

できるだけ親に負担をかけたくないと考えて、いろいろ調べていて貸付制度を知りました。非常に助かりました。

Q なぜ、障害のある方々の介護の現場を仕事として選んだのですか？

やはり弟の影響もあって、当初から知的障害者の方の手助けになる仕事を考えていました。

Q 現在、担当されている業務を具体的に教えてください。

成人寮の利用者は重度、最重度の利用者が多いため、生活動作が難しい方の場合の身体介護や、支援なしでは生活が困難な方の食事、着替え、排泄などの生活支援をします。

Q 働き甲斐や面白さなどはどのようなところでしょうか？ また大変なところや悩んだことは？

やりがいというのは、やはり利用者の笑顔を見られることですね。お祭りや旅行など、楽しんでもらえる行事を考えて実施するのですが、外に出た時の利用者は、寮にいる時とは別の表情を見せます。利用者が笑顔になるとうれしいし、私たちも楽しいです。

利用者一人ひとり能力が違いますし、個性もあります。気分によっては、コミュニケーションをはかることが難しくなることがあります。それが原因で落ち着かなくなり、他の利用者にも影響してしまい負担になってしまうとつらいですね。

Q 今後の抱負をお聞かせください。

個人としては、相談業務もしてみたいです。保護者、利用者、他の職種の方と一緒に支援計画を立てて、利用者にとって最善の支援ができるような話し合いをしてみたいと思います。

Q 介護福祉士を目指している方へのアドバイスなどがあればお願いします。

第一は、目的意識をしっかり持つことです。現場に行って細かいところを見て、それでも意志が変わらないのなら、信念に沿って進めばいいと思います。自分もそうでした。

実習では、あまり目にするのがないかもしれませんが、排泄の介助や失禁などもあります。職員がどのように対応しているのか、利用者に対する態度や関わり合いも見てほしいです。

もう一つ言うのなら、寮での生活だけではなく、お祭りなどの行事を利用者と一緒に楽しむことです。そうすることにより、お互いが笑顔になることができます。私は、それをモットーに仕事をしています。

資格取得を目指す学生に 修学資金の貸し付けをしています

～介護福祉士等修学資金貸付事業のご案内～

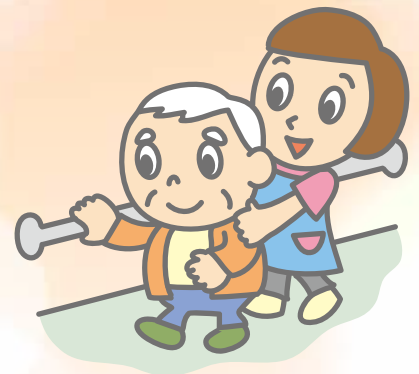
山梨県社会福祉協議会では、介護福祉士などの資格取得を目指す学生を支援して、質の高い専門職を養成することを目的に、介護職養成校などに在学している学生を対象に修学資金の貸し付けを行っています。

貸付額

- 月額5万円以内 ● 入学準備金20万円以内(初回のみ)
- 就職準備金20万円以内(最終回のみ)
- 2年間の修学の場合、最大160万円の貸付になります

貸付対象者

- ① 山梨県の介護福祉士などの養成校等に在学していること
- ② 山梨県内に住所を有していること
- ③ 修学に際し経済的な援助を必要としていること
- ④ 同種の修学資金を他から借り受けていないこと
- ⑤ 養成施設等を卒業後、山梨県内の福祉施設で介護福祉士または社会福祉士として5年以上介護などの業務に従事しようとする意思を有していること



お問い合わせ 福祉人材研修課 TEL.055-254-8654

ソウェルクラブ (福利厚生センター)

ご加入のおすすめ

**新規会員
募集中!**
 会員数 247,000 人

職員の健康管理のために

- 生活習慣病予防健診費用助成
- 健康生活用品給付
- スポーツクラブ
- 電話健康相談

職員の余暇活用のために

- 指定保養所・・・休暇村他 全国107ヶ所
- 会員制リゾート施設・・・ラフォーレ倶楽部 セラヴィリゾート泉郷
- 全国提携宿泊施設
- 国内・海外パッケージツアー
- レンタカー ● カルチャースクール
- テーマパーク ● レジャー施設
- クラブ・サークル活動助成

職員の生活サポートのために

- 特別提携住宅ローン
- 特別資金ローン
- ソウェル団体生命保険・傷害保険
- 引越サービス、事務用品、書籍CD

「クラブオン」
 割引価格で利用できます

各種情報提供

- 会員情報誌 ● ホームページ

地域の密着した事業

- 会員交流事業(旅行・観劇等)

職員の資質向上のために

- 広報講習会 ● 接遇講習会
- レク・リーダー養成講習会
- メンタルヘルス講習会
- コンプライアンス講習会
- OJTスキルアップ講習会
- パソコン講習 ● 海外研修

職員の万が一の際に

- 会員の死亡弔慰金
- 会員の配偶者の死亡弔慰金
- 会員の入院・手術見舞金
- 災害見舞金

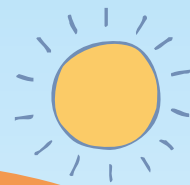
しくみ 社会福祉事業経営者が当センターと契約することにより、その事業所に勤務する方々が会員として登録され、自由に福利厚生サービスを利用することができます。

掛金 第1種会員：1人当たり毎年度 1万円
第2種会員：1人当たり毎年度 5万円

お問合せ先

社会福祉法人
福利厚生センター
山梨県地方事務局
山梨県社会福祉協議会
総務企画課
TEL.055-254-8610

今年は「東京ディズニーシーのパークファンパーティ」に参加しました！



11月11日は「介護の日」

～ いい日、いい日、毎日、あったか介護ありがとう ～

現在、高齢化などにより介護が必要な方々が増加している一方、介護にまつわる課題は多様化しています。こうした中、多くの方々に「介護」を身近なものとしてとらえていただくとともに、それぞれの立場で介護を考え、関わっていただくことが必要となっています。

そこで国では、介護に関する啓発を重点的に実施するための日として、11月11日を「介

護の日」と決めました。介護についての理解と認識を深め、介護サービス利用者及びその家族、介護従事者等を支援するとともに、これらの人たちを取り巻く地域社会における支え合いや交流を促進する観点から、高齢者や障害者等に対する介護について、国民への啓発を重点的に実施する日として「介護の日」が設定されています。

福祉・介護のしごとシンポジウム

介護の魅力

～「深さ」と「楽しさ」～の発信

介護への関心を深めてもらうため、介護の魅力について様々な発信をします。どなたでもお気軽にご参加ください。

日時 平成27年11月15日(日) 12時30分～16時30分

場所 イオンモール甲府昭和 (3Fイオンホール)

対象者 中学生、高校生及びその保護者、福祉・介護の仕事に興味のある方、福祉・介護職養成学校の学生及び保護者、福祉・介護施設関係者、一般県民

内容 ●講演会 「介護で出会った素敵な人々」～私が実践する“魔法の声かけ”～
講師:北原佐和子さん(女優・介護福祉士)

●パネルディスカッション
「介護が変わる、介護を変える」～これからの介護の話をしよう～

●リハビリテーション支援ロボットのデモンストレーション

参加費 無料ですが聴講券が必要です。



申し込み・お問い合わせ 福祉人材センター ☎055-254-8654

福祉の就職総合フェア in やまなし(秋)

を開催します!

日時 11月30日(月) 13:00~16:00

(受付12:00~15:30)

会場 アピオ甲府 (中巨摩郡昭和町西条3600)

参加費無料
入退場自由

山梨県福祉人材センターでは、「福祉の就職総合フェアinやまなし(秋)」を開催します。

福祉の仕事の内容や、資格についての相談に応じるほか、求人施設や事業所の人事担当者と直接、個別に相談ができるブースを設けます。

さらに、福祉関係の資格取得方法や、福祉全般に関する相談に応じるコーナーなど、各種相談コーナーと、求人事業者との面接ブースも設けます。

選考の場ではありませんので、どうぞ気軽にご参加ください。

このフェアをきっかけに、ひとりでも多くの方が福祉の仕事に興味を持ち、福祉の現場でご活躍いただくことを期待しています。

※求人事業所は、事前の参加申し込みにより決定された事業所となります。参加事業所は11月中旬より本会ホームページに掲載予定です。

<http://www.y-fukushi.or.jp>

★車でお越しの方は…

中央自動車道甲府昭和ICから5分

★専用シャトルバス

<JR甲府駅南口発>12:00と13:00発

<アピオ甲府発>15:00と16:00発

アクセス

無料

内容

● 合同面接コーナー

職員採用計画のある社会福祉施設・団体・企業(求人者)等の人事担当者ととの個別面接相談を行います。

● 種別施設相談コーナー

● 福祉の仕事なんでも相談コーナー

● ハローワーク相談コーナー

● 関係機関相談コーナー

● 福祉人材センター相談コーナー



お問い合わせ
福祉人材センター ☎055-254-8654

ナイト&ホリデイ 福祉の仕事 就職講座

「福祉のしごとに関心があるけれど学ぶ機会がない、福祉のしごと就職したい、もっと福祉について知りたい」という方を対象に、各分野で活躍している専門職員が講師となって、職場説明のほか、就労に必要な知識などの習得を目指します。

また、モチベーションアップ法などを学び、しごとに対する意欲向上を図るほか、メンタルヘルス対策として職場でのストレスや、こころの健康を理解し、セルフケアなどを学びます。

開催日・内容

※定員になり次第締め切ります。関心のある講座だけでも構いません。

①11月 2日(月) 高齢者福祉概論

②11月 4日(水) 障害者分野(生活支援員について)

③11月 6日(金) モチベーションアップ・高齢者レクリエーション

④11月 9日(月) 児童分野(障害児施設について)

⑤11月11日(水) 障害者分野(作業指導員について)

⑥11月13日(金) メンタルヘルス(アドラー心理学とリラクゼーション)

⑦11月15日(日) 福祉・介護のしごとシンポジウム ※P10参照

時間 ①~⑥ 受付 18:30~、講義 19:00~21:00

会場 山梨県福祉プラザ4階会議室(甲府市北新1-2-12)、他

参加費 無料

申し込み・お問い合わせ 福祉人材センター ☎055-254-8654

いきいき山梨ねんりんピック2015

明るく元気で楽しい 世代間交流

平成27年9月26日(土)、今年で23回目を迎えたこの大会は、「お年寄りから子どもまで、世代を超えて交流を深める」ことを目的に、いきいき山梨ねんりんピック実行委員会(事務局:山梨県社会福祉協議会)主催のもと、甲府・小瀬スポーツ公園をメイン会場に開催しました。



①



②



③



④



⑥



⑤

当日は、60歳以上の皆さんが参加できるソフトテニスや太極拳などの各種スポーツ交流大会、囲碁や将棋などの文化交流大会が行われました。



子どもたちと一緒に参加できる「三世代交流」をテーマに、凧づくり、絵手紙、押し花などの体験コーナーや高齢者の皆さんが教えてくれる昔懐かしい遊び、その他さまざまなイベントを通じて世代を超えた交流を深め、楽しい一日を過ごしました。



①選手宣誓②ゲートボール③グラウンドゴルフ④ふれあい芸能フェスティバル⑤クイズウォーキング⑥輪投げ⑦ソフトバレーボール⑧テニス⑨将棋⑩ニュースポーツ(ストライクターゲット)⑪太極拳⑫弓道⑬囲碁⑭ニュースポーツ(パッコー)⑮バウンドテニス⑯ラージボール卓球⑰剣道⑱ノルディックウォーク⑲ふれあい広場⑳健康・福祉フェア

Goods

福祉用具紹介
あると便利なグッズたち



ずり落ちを軽減して居心地アップ

腹部圧迫軽減マットレス FK-95

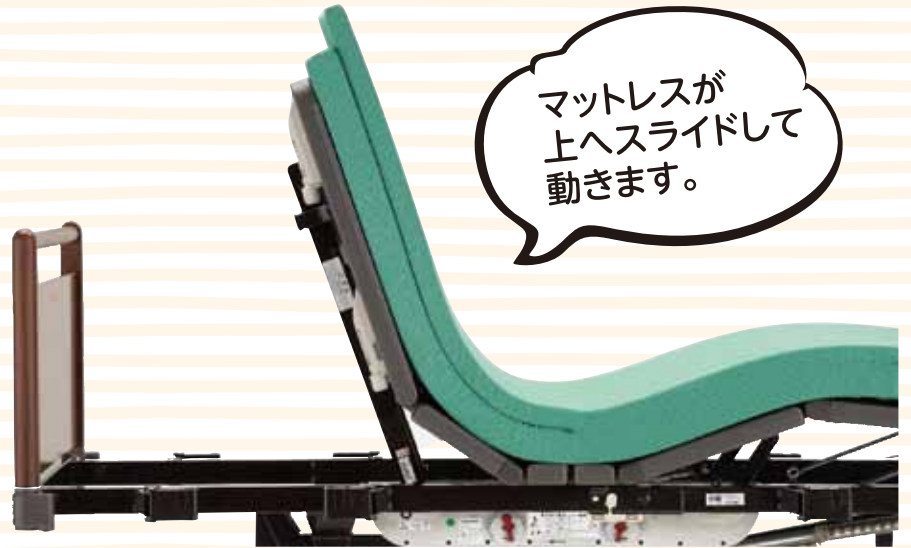
(※福祉用具貸与対象品)

●85cm幅 価格61,650円(税込)

●97cm幅 価格71,280円(税込)

※購入方法により、非課税になる場合があります。
詳しくはお問い合わせ下さい。

上下2層構造のマットレス。マットレスが上へスライドして動くことで、背上げの時にかかる腹圧を軽減します。また、ずり落ちを軽減し、寝ている方の居心地アップにもつながります。介護者にとっては背抜き(ある程度上半身を起こした後、背中をマットレスから浮かせてずれや圧迫感を逃がすこと)の手間を省くことで、介護負担が軽くなります。



CheckPoint

背上げ時のずれや腹部の圧迫が気になる方にお薦めです。

2

床ずれを防止するマット

アルファプラ ソラ

価格213,840円(税込) (※福祉用具貸与対象品)

安定性と柔らかさを持つウレタンマットレスをベースに、腰部にはエアセルを採用したハイブリットタイプです。格子状に並んだエアセルが前後左右に膨張するため、安定感があります。エアセルの内圧は圧力センサーによって自動制御。専用カバーは、撥水・防水・制菌加工で汚れにくく清潔さを保ちます。



マットレスの左右両側は高硬度ウレタンなので、膝や手をついての介助がしやすく、介護者の負担も軽減します。



CheckPoint

円背や関節拘縮、麻痺などポジショニングが必要な方、エアマットレスでは不快な方、床ずれのリスクは高いが動ける方にお薦めです。

3

認知症老人徘徊感知機器 キャッチアップセンサー

価格105,840円(税込) (※福祉用具貸与対象品)

工事不要の
ワイヤレスのため
必要な場所に
手軽に設置できます。

人の重み(10kg程度)を感知して音で知らせる無線機内蔵マット。設置簡単、マットからのコードがなく、ずれにくいので、玄関先、部屋の出入り口、廊下等、必要な場所に必要な時に置くだけで、人の出入りをキャッチします。

マットは防水タイプのため屋外にも設置可能。1台の受信機に対しマットを20台まで登録できるため、お知らせ音を変えて登録すれば居場所を特定することができます。



CheckPoint

オプションで、反応しているマットの場所を音とランプで確認できる受信機や、マットと受信機の距離をさらに伸ばす場合に使う中継器があります。

※福祉用具貸与対象品

掲載している3点については、介護保険の福祉用具貸与対象品です。要介護2～5の認定を受けている方は、レンタル料の1割*でレンタルできます。

*平成27年4月の介護保険法の改正により、平成27年8月1日から一定以上の所得のある場合、自己負担が現行の1割から2割の利用者負担となりました。詳しくは、市町村にご確認下さい。

講座のご案内

○介護実習普及センター

高齢者介護をしている家族向けの講座

講座名	内容	定員	開催日	開催時間	開催場所	対象者
認知症高齢者介護講座 (2日間1コース)	認知症の病気を理解し、対応や介護について介護体験者の経験を基に考え、学びます。	30名	12月3日(木)	13:30~16:30	山梨県 福祉プラザ1階 介護実習室	一般県民
			12月4日(金)	13:30~16:40		

○介護実習普及センター

団体向け講座

※5名以上のグループでご参加下さい。

講座名	内容	定員	開催日	所要時間	開催場所	対象者
認知症サポーター養成講座	認知症の基礎知識や認知症の方への対応を学びます。	30名	通年(随時)	2時間	山梨県 福祉プラザ1階 介護実習室	一般県民

※開催日時については、団体からの希望日時と相談になります。 ※開催場所については、出張も可能です。

【お問い合わせ・お申し込み先】 介護実習普及センター ☎055-254-8680



第63回山梨県社会福祉大会を開催します

NHKドラマ10「サイレント・プア」のモデルであり、監修を務めた勝部麗子さんが来県します

山梨県の社会福祉関係者が一堂に会し、今日まで社会福祉の発展に功績のあった個人・団体などに対し、感謝の意を表するための表彰を行います。また、大会を通してこれからの社会福祉の推進方策を探ります。ぜひご参加ください。

- 主催** 社会福祉法人山梨県社会福祉協議会・社会福祉法人山梨県共同募金会
- 日時** 平成27年11月24日(火)午後1時30分～3時30分
- 場所** コラニー文化ホール(山梨県立県民文化ホール)大ホール
甲府市寿町26-1(☎055-228-9131)
- 内容** ・大会式典
・記念講演「声なき声が社会を変える～社会福祉協議会の役割～」
講師:社会福祉法人豊中市社会福祉協議会
事務局参事兼地域福祉課長
勝部麗子さん(写真)

- 参加費** 無料
- 問い合わせ** 県社協総務企画課 ☎055-254-8610



勝部麗子さん

善意をありがとう

去る7月29日(水)甲府・県福祉プラザにおいて山梨県社会福祉協議会は、JA共済連山梨(飯窪一浩本部長)様からの生活物資(食料品等)の寄付ならびに寄付金の贈呈式を行いました。

JA職員が持ち寄った食料品等と寄付金は、直接「フードバンク山梨」に贈られ、県内の生活困窮者の支援に活用されています。ありがとうございました。



JA共済連山梨副本部長 鷹野武様(左)

貸し出し 図書紹介

『最新 図解でわかる 介護保険のしくみ』

- 著者** 服部 万里子
- 発行者** 吉田 啓二
- 発行所** 株式会社 日本実業出版社
〒113-0033 東京都文京区本郷3-2-12
〒530-0047 大阪市北区西天満6-8-1
☎編集部03-3814-5651
営業部03-3814-5161
- ホームページ** <http://www.ngj.co.jp/>



平成12年度にスタートした介護保険制度は、3年ごとに見直しが行われています。

『最新 図解でわかる介護保険のしくみ』は、平成27年度から適用された制度全体のしくみや、保険料の見直し、介護報酬の改定を解説しています。

また、実際にサービスを利用する方法やサービスを利用するときに役立つ知識など、介護保険のポイントをわかりやすく紹介しています。

このほかにも介護・看護・福祉についての本(約300冊)やビデオ・DVD(約200本)を貸し出しています。詳しくは県立介護実習普及センターにお問い合わせください。
☎055-254-8680

広報誌「やまなしの福祉」を パソコンやタブレットで閲覧

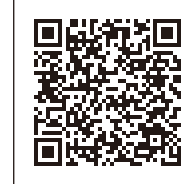
広報誌「やまなしの福祉」は、本会ホームページでPDF版の閲覧ができるほか、電子ブックでもご覧になれます。

タブレット・スマートフォンでの電子ブックのご利用の場合は、下記のQRコードでアクセスしてアプリ(ActiBook無料)をダウンロードしてください。指定のID(毎号変更)を入力すると閲覧できます。

11月号は以下の通りです。
※パスワードは必要ありません

ホームページ <http://www.y-fukushi.or.jp>

Android用



iOS用



11月号のID **yfukushi326**